今週の為替相場見通し（2018年12月3日）

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	（円）		112.88 ～ 114.03	113.41	112.50 ～ 114.50
ユーロ	（ドル）		1.1267 ～ 1.1402	1.1316	1.1200 ～ 1.1400
（1ユーロ=）	（円）		127.95 ～ 129.30	128.46	127.00 ～ 130.00
英ポンド	（ドル）		1.2725 ～ 1.2864	1.2755	1.2650 ～ 1.3000
（1英ポンド=）	（円）	*	144.52 ～ 145.84	144.79	143.00 ～ 146.00
豪ドル	（ドル）		0.7199 ～ 0.7345	0.7307	0.7150 ～ 0.7450
（1豪ドル=）	（円）	*	81.59 ～ 83.22	82.98	81.00 ～ 84.00

（データ）先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1．米ドル

為替営業第二チーム　上野 智久

（1）今週の予想レンジ：　112.50 ～ 114.50 円

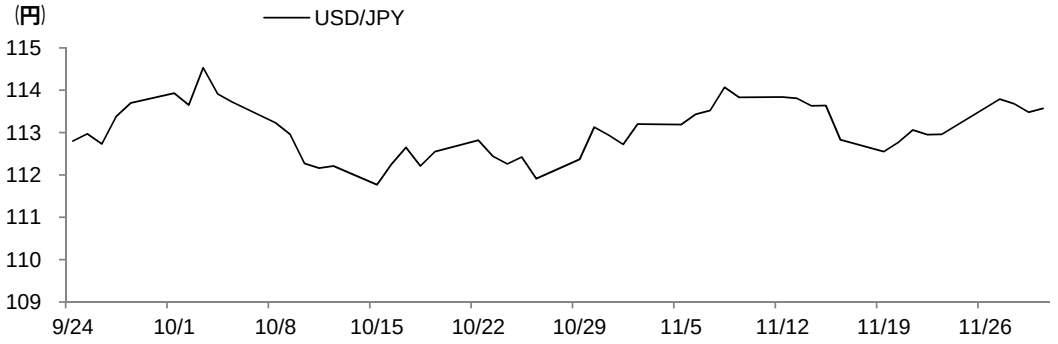
（2）ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

今週のドル/円相場は堅調推移後に反落した。週初26 日に112 円台後半でオープンしたドル/円は、序盤に週安値となる112.88 円をつける展開。しかし、先週のブラックフライデーの売上が非常に好調だったことを受け、今年の年末商戦に対する期待感が強まる中、前週に大幅下落した米国株が上げ幅を拡大し、米国債利回りも上昇基調。リスク選好の動きが戻り、ドル/円は一本調子で113 円台半ばまで上昇。27 日も前日の流れを受け、小確りとした推移。加えて、クドロー米NEC 委員長の「12 月1 日に米中首脳会談を予定。協議の成果に期待するが、追加関税の用意もある」との発言に113 円台後半まで上伸した。28 日は米国債利回り･米国株の上昇にサポートされ週高値となる114.03 円をつけた。しかし、パウエルFRB 議長が講演で「政策に規定路線はなく、金利は中立レンジをやや下回る」、「利上げの影響は不確実で顕在化に1 年以上かかる可能性がある」と発言し金融政策引き締めに慎重になっているとの見方が強まると113 円台半ばまで急落した。29 日は前日のパウエル議長の発言を受けて来年以降の追加利上げ期待の後退が意識され113 円台前半まで続落したが、「トランプ米大統領が中国と何かすることは極めて低いと述べた」と報じられ、米中貿易摩擦緩和への期待から113 円台半ばまで回復。30日は11/30～12/1のG20並びに米中首脳会談を控える中で積極的な商いは手控えられ、113円台半ばを中心とした推移となり、同水準で越週している。

今週のドル/円は底堅い展開を予想する。G20並びに米中首脳会談では首脳宣言、共同声明がそれぞれ発表されており、交渉決裂という最悪の事態は免れた格好となっている。しかし、G20（11/30-12/1）の合意内容を確認すると、従来盛り込まれていた「保護主義と闘う」という文言が削除され、自由貿易の重要性への言及が大きく減少。また、WTO改革も盛り込まれており、今後の米国主導の通商問題への懸念が改めて意識される形。米中首脳会談についても焦点となった「貿易戦争」の打開策について、米国が来年1月1日に予定した対中追加関税の引き上げ（従来10%→25%、2000億ドル分）を当面凍結する一方、中国は米産品の輸入拡大で対米貿易黒字の削減に努めることで合意がなされている。しかし、いずれも抜本的な解決には程遠く、また米中通商交渉については、早くも猶予期間である90日のうちに協議がまとまるのは困難との見方が出てきており、予断を許さない状況に変化はない。今週は、FED要人発言や米指標の発表を控えているが、一旦はリスクイベントを消化し、過度な警戒感が和らぐ中でドル/円はしっかりとした推移になるのではないか。

（3）先週までの相場の推移

先週（11/26～11/30）の値動き：　安値 112.88 円　高値 114.03 円　終値 113.41 円



（資料）ブルームバーグ

2．ユーロ

為替営業第ニチーム　綱島 正侑記

⑴ 今週の予想レンジ：　1.1200　～ 1.1400　　127.00　～ 130.00　**円**

⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

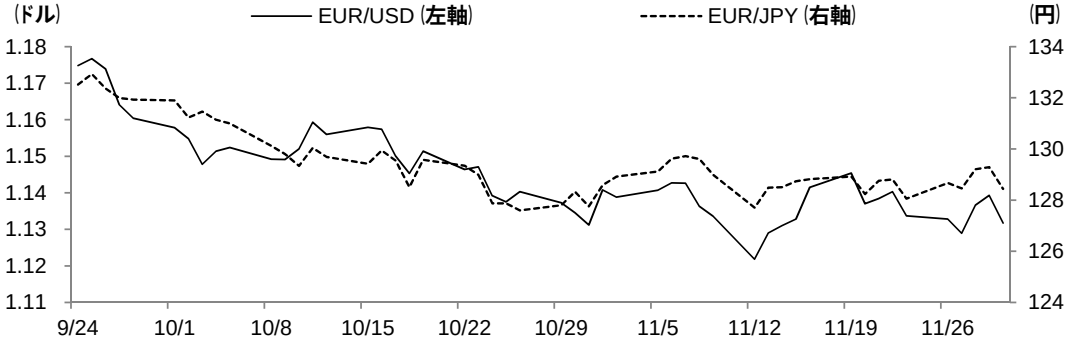
先週のユーロ/ドルは下落後、反発し往って来いの展開となった。週初26日、1.13台半ばで取引を開始したユーロ/ドルは、週末のEUサミットで英EU離脱案が承認されたことや伊政府財政赤字目標額変更との期待からイタリア懸念が後退したことを受けて一時1.13台後半まで上昇した。しかし、ECBのプラート理事が「ユーロ圏は経済成長勢いを失っている」等とコメントしたことやドル買いの流れを受けて反落。翌27日には、トランプ米大統領の「Brexit合意次第では、英国は米国と貿易できないかもしれない」との発言を受けてポンドが売られる流れに連れて下落した。また、前回ハト派コメントが注目されたクラリダFRB副議長の発言は特段ハト派な内容は見当たらず警戒感が後退したことからドルが買われユーロ/ドルは下落幅を拡大。28日も欧州時間にかけドル買いの流れが継続し週安値となる1.1267まで下落したが、北米時間入り後にパウエルFRB議長の「金利は中立レンジをわずかに下回る」との発言を受けて米金利低下・株上昇・ドル全面安となり1.13台後半まで反転上昇、週前半の下落を取り戻した。29日はドル安の流れを引き継ぎユーロ/ドルは堅調に推移し週高値となる1.1402まで上昇する場面も見られたが、1.14台では上値重く押し戻され1.13台後半を中心に揉み合い推移。30日には週末にG20を控えたポジション調整や月末フローなどからドルが買い戻される中でユーロ/ドルは反落し、1.13台前半で越週した。ユーロ/円は週初128円近辺で取引を開始。上述のEUサミットでの英EU離脱案承認やイタリア懸念後退に加え堅調な株価の値動きもサポートとなり128円台後半まで上昇。その後はドル中心の値動きに128円台半ばから後半で揉み合いとなったが、28日のパウエルFRB議長発言を受け株が堅調推移する中129.25円まで上昇。29日は129.00円を中心に揉み合いとなったが、月末30日にはやや値を落とし128円台半ばで越週となった。

今週のユーロ/ドルは上値重く推移しよう。EU内では英EU離脱案について承認されたものの、英議会でのEU離脱案承認を来週に控える中、現時点でメイ英首相は承認に必要なだけの賛成票を確保できていないとみられる。英議会での離脱案承認が得られなければ合意なき離脱いわゆるハードBrexitへの警戒感が高まり、ポンドとともにユーロは売られよう。一方、先週のパウエルFRB議長発言以降、米金利が低下しており米10年債利回りについては9月以来となる3.0%割れの水準まで低下している。米金利低下が継続すればドル売り圧力となり、ユーロ/ドルをサポートする要因となる点には注意したい。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（11/26～11/30）の値動き：　（対ドル）安値 1.1267　高値 1.1402　終値 1.1316

（対円）安値 127.95　高値 129.30　終値 128.46



（資料）ブルームバーグ

3．英ポンド

欧州資金部　清 杏子

⑴ 今週の予想レンジ：　1.2650　～ 1.3000　　143.00　～ 146.00　**円**

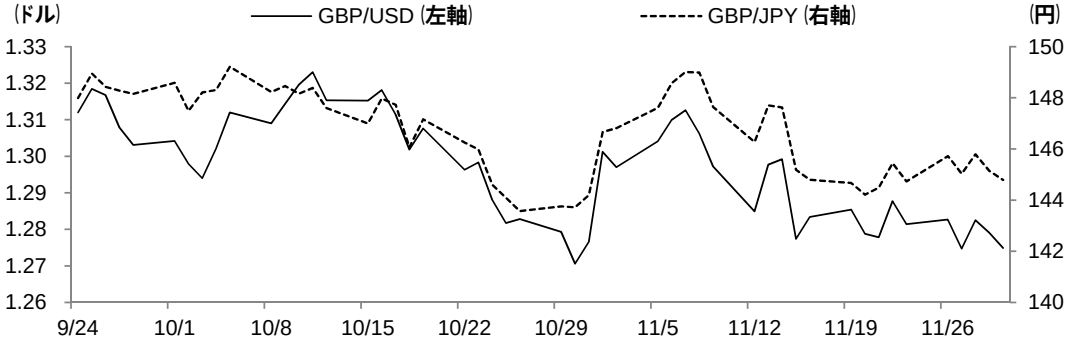
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場はヘッドラインに振らされながらも方向感は出ず、ポンドドルは1.2725～1.2864のレンジで推移した。週初26日のポンドドルは英国離脱に向けＥＵと英国が合意した離脱案が作成されたとの報道から小幅に上昇して始まったものの、米国時間に入りドルが上昇したことから反落。ドル買い基調は翌日も継続し、ポンドドルは一段安となった。この日からメイ首相は英国合意案に懐疑的な議員や国民の説得を目的に英国内4か所を行脚するキャンペーン（12月12日まで）を開始したものの、市場への影響は極めて限定的であった。その後民主統一党フォスター党首が「離脱協定案は支持できるものではない」とコメントしたことを受けポンド売りの流れに。トランプ大統領の「英国離脱案は米英間の貿易関係を阻害するものになる」発言でポンド売りを後押しし、ポンドドルは一時週内安値である1.2725を付けた。週央はポンド固有のヘッドラインがない中、ユーロの買いにつられポンドも買われる展開に。米国時間にはＦＲＢパウエル議長発言から大幅に米金利が低下、ドル売りが進みポンドドルは週初の下落幅を戻す格好となった。29日のポンド相場は下落。レッドソム下院院内総務がメイ首相を支持すると報道された事はポンドのサポート要因となったものの、その後公表された英10月自動車生産の前年比下振れやユーロ圏11月景況感指数の低下がポンドの水準を押し下げた。翌日もポンドドルは軟調に推移。朝方フォックス国際貿易相が「メイは世論を変える事に成功しており、離脱案への支持は明らかに増えている」とラジオで発言。ポンドは小幅に買われたもの、その後米国が新ＮＡＦＴＡに調印した事が報じられるとドル買いが進み、ポンドドルは下落してＮＹに渡った。

今週の英ポンド相場は、ヘッドラインを受けて上下しながらも明確な方向感は出辛く上値重たい推移を予想。引き続きポンドの動向を占う上でメインテーマは英国ＥＵ離脱交渉である。今月11日（火）に英国下院採決が予定されており、採決においてＥＵ英国間における離脱協定合意案が可決の可否が市場の関心事である。現状可決に必要な過半数の票をメイ首相が獲得する展開は考え難く、交渉案の行方については後ずれが市場のコンセンサス。下院可決を示唆するヘッドラインはポジティブサプライズでポンド買い材料になるが、可能性は極めて低いであろう。また、下院採決までは採決の可否を占いながらの相場となり、上記レンジでの推移を予想する。今月公表予定の指標は3日（月）英国11月製造業ＰＭＩ、5日英国11月サービス業ＰＭＩ、英国11月コンポジットＰＭＩの公表が控える英国のＰＭＩ公表とほぼ同じスケジュールでユーロ圏やイタリア・スペインのＰＭＩも公表予定である。足元ユーロ圏の景気減速懸念が意識される中、これらの指標の下振れはユーロ売りを意味し、ユーロ売りに連れられてポンドも軟調に推移する事が予想される。指標の市場予想対比下振れはポンド売り材料として留意したい。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（11/26～11/30）の値動き：　（対ドル）安値 1.2725　高値 1.2864　終値 1.2755
（対円）安値 144.52　高値 145.84　終値 144.79



（資料）ブルームバーグ

4．豪ドル

アジア･オセアニア資金部　シドニー室　今村 加奈子

⑴ 今週の予想レンジ：　0.7150　～ 0.7450　　81.00　～　84.00　**円**

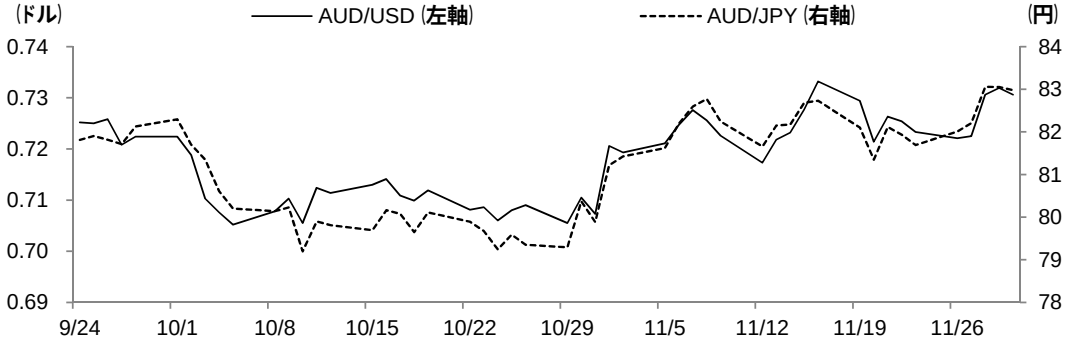
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、0.72台から0.73台へレンジを切り上げた。26日、豪ドルは0.7230台半ばで取引が始まり材料を探しながら0.72後半まで上昇、ドラギECB総裁の「ユーロ圏の経済成長は若干減速」の発言を受け主要国の景気動向に敏感な豪ドルは0.72前半へ値を下げた。27日、重要な経済指標が乏しく0.72前半での小動きが続いた。クラリダFRB副議長の発言「緩やかな利上げ継続が必要としながら中立的なスタンスに近づきつつある」が注目されたが目立った動きには繋がらなかった。焦点となったのは28日のパウエルFRB議長の講演、「米国の政策金利は中立とされるレンジをわずかに下回る」との発言は今までと比べトーンダウンしたと市場で取り沙汰され、米株式は大幅に買い戻された。同氏の発言はドル売りを誘発し豪ドルを0.73前半まで急伸させた。29日、豪ドルは0.7300近辺でサポートされ引続き上値を試す様相で今年8月中旬以来の水準となる0.7345まで上昇した。30日に開幕のG20首脳会議では共同宣言が週末に取りまとめられるか注視される中、豪ドルは0.73前半での取引が見られた。先週の豪ドル/円相場は、81円台から83円台へ堅調推移した。26日、豪ドル/円は81円半ばでオープン、82円前半まで上昇したがその水準では売りに押され82円近辺へ押し戻された。水曜日のパウエルFRB議長の講演待ちの中、27日は豪ドル上昇にサポートされ81円後半から82円半ばへレンジを若干切り上げた。市場の焦点となったパウエルFRB議長の以前より穏やかなトーンの米利上げ継続についての発言は、豪ドル/円を今年7月以来の83円前半へ急伸させた。29日、豪州7月～9月期民間設備投資の弱い結果を受け一時82円後半へ反落したものの、欧米株式上昇を好感しリスク選好となり豪ドル円は83円を挟んだ商いへ移行した。

今週の豪ドルは0.7300･豪ドル円は83円を値固めできるか注目される。今週は数多くの豪州経済指標の発表が予定されている。3日(月)は豪州7月～9月期企業収益、4日(火)は豪州7月～9月期経常収支、5日(水)は豪州7月～9月期GDP、6日(木)豪州10月貿易収支と小売売上高などがある。豪州GDPは予想前年比+3.3%でありその結果が待たれる。また、先月初旬、予想より大幅に高い豪州貿易黒字幅は材料視され豪ドルを上昇させたことから、豪州10月貿易収支の今週木曜日発表も重ねて注視したい。4日は豪州準備銀行(RBA)理事会が予定され、市場は過去最低金利1.50%据置き予想である。また、デベルRBA副総裁の講演が6日（木）に予定されている。11月の豪ドルは0.70台から0.73台まで急伸したが、今週は12月に入り、豪ドル0.7300をサポートできるか。上値レジスタンスは0.7350と0.7450、下値サポートは0.7270と0.7200となる。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（11/26～11/30）の値動き：　（対ドル）安値　0.7199　高値　0.7345　終値　0.7307
（対円）安値　81.59　高値　83.22　終値　82.98



（資料）ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。